

CSR方針

基本方針（2014年5月策定）

東洋ゴムグループは、
一人ひとりが社会との「つながり」を意識して行動し、
人と社会に求められる企業であり続けます。

重点テーマとあるべき姿

重点テーマ	2020年のあるべき姿	優先課題	関与するステークホルダー	
			直接	間接
1 製品・サービスの信頼と革新	高い品質と安全性をベースに、環境にやさしい製品・サービスを提供している	●徹底した顧客志向に基づく製品品質の確保 ●気候変動への適応、緩和への取り組み ●技術系人材の育成	顧客	株主・投資家 債権者 業界団体
2 地球環境への貢献	グループ全体で環境経営を推進している	●気候変動への適応、緩和への取り組み ●水リスク低減への取り組み ●資源循環の取り組み	地域社会 地球	N G O 株主・投資家 業界団体
3 人権と多様性の尊重	国際的な人権意識のもと、多様な人材が活躍している	●人権尊重責任の遂行 ●国際慣習法に照らした労働基準の見直し	従業員	N G O 株主・投資家 業界団体
4 取引先との協働	サプライチェーン全体でCSRに取り組んでいる	●サプライチェーンマネジメント（社会・環境）	取引先（サプライヤー） （ロジスティクス）	業界団体 株主・投資家 地域社会 N G O 政府・行政
5 地域社会との共生	ステークホルダーの声に耳を傾けながら、地域社会の発展に貢献している	●地域社会とのエンゲージメント ●生物多様性の保全	地域社会 地球	N G O 政府・行政 株主・投資家
6 安全で健康的な職場づくり	安全を最優先に、安心して働ける職場づくりに取り組んでいる	●グローバル水準の労働安全管理、労働衛生管理	従業員	業界団体 株主・投資家 N G O
7 ガバナンス・コンプライアンスの強化	常に経営の透明性向上を図りながら、誠実な事業活動を実践している	●コーポレートガバナンスの強化 ●コンプライアンス最優先意識の浸透向上	CSR経営の基盤としてすべてのステークホルダーに配慮しながら取り組んでいます。	

重点テーマの特定プロセス（2013年～2014年）

多岐にわたるCSR活動のなかで重点的に取り組むべき課題を、当社グループとステークホルダーにとっての重要性を軸に特定し、それらを7つの「重点テーマ」として集約しました。また重点テーマを設定した際に、それぞれの達成イメージとして「2020年のあるべき姿」を明確にしました。

東洋ゴムグループのサステナビリティに必要な優先課題の抽出（2017年）

東洋ゴムグループは、重点テーマならびに2020年のあるべき姿の特定後の事業環境の加速度的変化、およびステークホルダーの皆さまの新たな要請を考慮し、当社グループが将来にわたって持続可能な成長（サステナビリティ）をめざすために、優先的に取り組むべき課題の抽出を行いました。

課題の抽出は客観性を重視し、外部評価機関の評価結果を参考に、外部有識者のご意見をいただきながら行いました。

抽出した優先課題のうち、組織横断的な活動推進が必要な課題に対しては、テーマごとにワーキンググループ（WG）を設置し、対応を検討しています。

SDGs達成への貢献と将来のあるべき姿（長期ビジョン）の検討（2017年～）

国連で採択された2030年のSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）達成への貢献を当社グループのサステナビリティにおける重要な経営課題の1つに位置づけ、グループ全社で横断的なWGを設置し協議しています。2018年度内にゴールをとりまとめ、当社グループのSDGsとして常務会で承認された後、グループ全社・全組織へ展開していく予定です。

また、現在重点テーマの達成イメージとして「2020年のあるべき姿」を掲げていますが、SDGsの達成によって得られる将来の当社グループのあるべき姿（長期ビジョン）についても、併せて検討を進めています。

推進体制

当社グループはサステナビリティを推進するため、取締役会から委任された常務会（議長：社長）が、優先的に取り組むべき課題について協議するWGの設置を承認し、WGにおいて方向性や目標・ターゲットなどアクションプランを協議しています。WGには、関係する事業組織の担当者が参集し、協議したアクションプランは常務会で承認され、グループ全社・全組織へ展開されます。現在「サプライチェーン」「環境」「人権・労働」「SDGs」の4つのテーマのWGを設置し、協議を行っています。

なお、サステナビリティを推進するため、各WGの活動進捗は常務会で管理するとともに、外部評価機関のパフォーマンス格付結果や、苦情処理メカニズムから得られるステークホルダーのご意見、業界動向などから各テーマのマネジメント手法の有効性について評価し、改善します。

〈当社グループのサステナビリティに必要な優先課題の抽出プロセス〉

- 1 企業の将来性として環境・社会・ガバナンス要因に対する対応力について評価しているFTSE社のESGレーティングの結果を指標として、当社グループのサステナビリティに対する取り組み状況を客観的に整理
- 2 ステークホルダーとのエンゲージメントの機会に、ステークホルダーから提起された重要な項目に関するご意見について考慮
- 3 整理した結果から、ステークホルダーの意思決定に対する影響が大きいと考えられる項目で、かつ当社グループの企業活動が経済、環境、社会に及ぼす影響が将来にわたって著しいと考えられる項目を当社グループのサステナビリティに必要な優先課題として抽出

〈当社グループにおけるSDGsおよび目標設定プロセス〉

- 1 2020年以降の事業環境を想定し、SDGsの達成が当社グループにもたらす機会と課題を整理
2020年以降に想定される事業環境：気候変動、新興国の経済成長、人手不足、高齢化、IoTの進化、ステークホルダーの影響力拡大、顧客ニーズの変化（快適な移動ニーズの高まり、燃費の改善ニーズの高まり、所有価値から利用価値へ移行）
- 2 当社グループが課題解決に貢献することで、社会および当社グループ双方に成長がもたらされるゴールを、当社グループのSDGsとして設定
- 3 SDGsの達成によって得られる将来の当社グループのあるべき姿（長期ビジョン）を策定